

熊本商工会議所・第37回 経営動向調査

平成17年9月期 結果報告書

業況DI マイナス31.9 対前期比 マイナス1.5ポイントで、ほぼ横ばい

～17年3月期調査から3期連続、小幅な動きとなる～

調査結果のポイント

全業種の業況DI値はマイナス31.9で、前回(平成17年6月期)調査と比較するとマイナス1.5ポイントとなり、ほぼ横ばいの状況であった。

前回(6月期)調査から業況が好転したのは3業種で、飲食業が33.3(プラス9.6ポイント)、建設業(職別・設備)が3.8(プラス7.3ポイント)、製造業が36.7(プラス3.9ポイント)となった。

一方、悪化したのは4業種で、サービス業が27.5(マイナス6.7ポイント)、建設業(土木)が33.3(マイナス6.6)、卸売業が43.5(マイナス6.0ポイント)、そして小売業が40.7(マイナス3.4ポイント)となった。

今回の調査では、全般的に見ると小幅な動きであったものの、卸売業、小売業については、売上高、仕入単価の悪化を要因に業況が悪化しており厳しさが見られる結果となった。また、来期の業況見通しについては、全体では、好転への期待感がやや見られた。

調査先からの意見として、新規郊外大型店出店の影響による今後の事業の存続に対する危惧や、商店街の疲弊を懸念する意見、そして原油価格上昇に伴うコストの急激な高騰やその価格転嫁難についての声などが多く見受けられた。

調査対象期間 平成17年7月～9月(平成17年度第2四半期)

調査期間 平成17年9月5日(月)～9月9日(金)

調査対象数 熊本市内 小規模企業 291事業所

回答数 213事業所(回答率73.2%)

(小規模企業とは、商業・サービス業では従業員5名以下、それ以外の業種は20名以下の企業)

《業種別回答状況》

対象業種	対象企業数	回答企業数	回答率(%)
製造業	37	30	81.1
建設業(土木)	21	12	57.1
建設業(職別・設備)	34	26	76.5
卸売業	35	23	65.7
小売業	71	59	83.1
飲食業	23	12	52.2
サービス業	70	51	72.9
合計	291	213	73.2

DI値(業況判断指数)について

DI値は、売上高、受注・販売単価、業況などの各項目についての、判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気や弱気など「景気の実感」をそのまま表わすものである。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

対前期比を主とした前回(6月期)調査と比較した概況

全業種

製造原価・仕入(材料等)単価が悪化し、販売(受注)・客単価はほぼ横ばい。売上高が僅かに悪化し、採算(営業利益)も、やや悪化した。全体の業況はほぼ横ばいとなった。

業況DIの変化 17年6月期 30.4 17年9月期 31.9

製造業

製造原価がほぼ横ばいのなかで、販売(受注)単価は大きく改善した。売上高が改善し、採算(営業利益)も、改善した。全体の業況は、やや改善となった。

業況DIの変化 17年6月期 40.6 17年9月期 36.7

建設業(土木)

仕入単価がやや悪化し、受注単価も悪化。売上高は大きく改善したものの、採算(営業利益)は悪化した。全体の業況は、悪化となった。

業況DIの変化 17年6月期 26.7 17年9月期 33.3

建設業(職別・設備)

仕入単価が大きく悪化した中で、受注単価は改善した。売上高がやや改善し、採算(営業利益)も改善した。全体の業況は、改善となった。

業況DIの変化 17年6月期 11.1 17年9月期 3.8

卸売業

仕入単価が大きく悪化し、売上単価もやや悪化となった。売上高が大きく悪化し、採算(営業利益)も悪化となった。全体の業況は、やや悪化となった。

業況DIの変化 17年6月期 37.5 17年9月期 43.5

小売業

仕入単価が悪化し、客単価も悪化。売上高が大きく悪化し、採算(営業利益)も悪化となった。全体の業況は、やや悪化となった。

業況DIの変化 17年6月期 37.3 17年9月期 40.7

飲食業

仕入単価、客単価ともに悪化となった。しかし売上高が大きく改善し、採算(営業利益)も改善した。全体の業況は、改善となった。

業況DIの変化 17年6月期 42.9 17年9月期 33.3

サービス業

仕入単価(材料等)がやや悪化し、客単価は横ばい。売上高もほぼ横ばいの中で、採算(営業利益)はやや悪化した。全体の業況は、やや悪化となった。

業況DIの変化 17年6月期 20.8 17年9月期 27.5

業種別の業況一覧

上段 = 対前期比
下段 = 対前年同期比

業 種	今 回 調 査 (17年9月期)	前 回 調 査 (17年6月期)	今回調査との 比較ポイント
全 業 種	31.9	30.4	1.5
	28.7	28.3	0.4
製 造 業	36.7	40.6	+ 3.9
	33.3	43.8	+ 10.5
建 設 業 (土 木)	33.3	26.7	6.6
	16.7	13.3	3.4
建 設 業 (職別・設備)	3.8	11.1	+ 7.3
	4.2	± 0.0	4.2
卸 売 業	43.5	37.5	6.0
	43.5	33.3	10.2
小 売 業	40.7	37.3	3.4
	37.3	42.4	+ 5.1
飲 食 業	33.3	42.9	+ 9.6
	33.3	28.6	4.7
サービ業	27.5	20.8	6.7
	22.4	19.2	3.2

来期(17年10~12月期)の業況見通し

全業種における、来期(17年10~12月期)の業況見通しDI値は7.8と本年6月期の前回調査の業況DI値14.7と比較してプラス6.9ポイントとなり、全体として好転の期待感がやや見られる業況見通しとなった。

業種別では、前回調査と比較して来期の見通しDI値が改善された業種は、製造業、建設業(職別・設備)、小売業の3業種であり、サービス業はほぼ横ばいとなった。なかでも製造業は+43.0ポイントと大きな改善となった。

一方、前回調査と比較して悪化した業種は、卸売業、建設業(土木)、飲食業の3業種であった。業種別の来期における業況見通しは、次の一覧のとおり。

業種	今回調査 (17年9月)	前回調査 (17年6月)	今回調査との比較
全業種	7.8	14.7	+ 6.9
製造業	4.8	47.8	+ 43.0
建設業 (土木)	25.0	16.7	8.3
建設業 (職別・設備)	+ 5.3	4.3	+ 9.6
卸売業	10.0	± 0.0	10.0
小売業	17.4	24.5	+ 7.1
飲食業	27.3	23.1	4.2
サービス業	+ 4.9	+ 4.4	+ 0.5